坐禅・一汁一菜の昼食など体験

建長寺で緑の少年団交流集会

「心をみがく坐禅をします」―県内の緑の少年団交流集会が、9月10日午前10時から、鎌倉市山ノ内の臨済宗大本山建長寺であり、坐禅や一汁一菜の昼食など体験した＝写真。

地球環境や緑の大切さを体験して学ぶ緑の少年団（林野庁所管）は箱根、南足柄、中山（横浜）、秦野、相模原、鎌倉にあり、この6少年団の小中学生、指導者ら80人が参加した。

同寺の永井宗直教学部長が、1200畳敷きの「応真閣」という客殿で、今日を精一杯生きることなどを教えている禅の法話を述べたあと、子ども向けの坐禅を指導した。

座布団を二つ折りにして座り、手、足の組み方、目の位置、姿勢の保ち方、警策の受け方を教えた。「呼吸は鼻でゆっくり吸い、頭は何も考えない。雑念を払い、心を一つにしていく」と語り、参加者は10分ほど取り組んだ。

静かな広間に「ピシッ」と響く警策の音に、子どもたちは最初のうち少し緊張気味だった。風に運ばれてくるセミの声、鐘の音に耳をすまし、表情もだいにやわらいでいく。

昼食は同寺発祥といわれる「けんちん汁」を主にした一汁一菜の精進膳。「感謝の思いをこめ、残してはいけません」と作法を学んだ。

境内の仏殿前庭に開山大覚禅師手植えと伝えられるビャクシンの古木7株がある。ここで風雪に耐え、8百年をいまも、健気に生きる樹回り約7㍍の古木を見ながら緑の学習をした。

鎌倉からは23人が参加した。「かまくら緑の探偵団」（高柳英麿会長）として03年春に発足。山野の観察、巣箱の取り付けなどしている。問い合わせ☎23・2530

鎌倉梅ワイン」ができました

上品な甘さ、さわやかな酸味に好評

「おいしい梅ワインができました」―鎌倉の新しい特産品として04年秋、誕生した鎌倉梅ワインが、今年も市内の酒販店で発売されている。

鎌倉酒類開発協議会（長嶋幸男会長）が、商業・観光の活性化のため、市内の農家や寺社の境内の梅を原料に山梨・勝沼の酒醸造所でワインにした。

梅が豊作で昨年より1㌧多い2・3㌧加工し、72㌣㍑入り、8千5百本生産した。梅ワインののぼり旗をかざした市内61の酒販店で扱っている。価格は一本1236円。

若宮大路沿いの鎌倉生涯学習センター前で、9月上旬、試飲キャンペーンをした。ミス鎌倉も参加し、通りがかりの人にサービスした。「フルーティーな味」「上品でさわやか」など好評だった＝写真。

ひと

手品師のように見事な布地の袋物を仕上げる

内山美枝子（うちやま みえこ）さん

女性にとって必携品のような手提げ袋などのバッグ類。それは多種多様だが、そうしたものを布地で、巧みに作り続けて60年になる。

「こういうことが好きなんですね。呉服屋さんなどから頼まれて、本格的にやっていた時期もあったが、いまボケ防止を兼ね趣味でやっている」

鎌倉に住んで半世紀以上になるが、結婚して間もない20代のとき、夫の仕事の関係で福島へ。そこで出会ったのが、袋物作りの講習会。

幼いときから、コツコツやる縫い物のような手仕事が、好きだったこともあって、のめり込んでいった。

一古くなった着物や帯の生地を見ると、柄や大きさに合わせて、どんな袋物がよいか考えてしまう。手作りなので大きさ、形状など一つとして同じ物はない」

自宅には仕上げられた巾着、茶道用の数寄屋袋、手提げ、三つ折りの抱えバッグ、ショルダーバッグなど数十点並ぶ。ペンケース、扇子入れといった小物入れもある。

外側にポケットのついたのや手提げのヒモを調節できるようになっていたり、どれも丁寧な出来栄え。今年5月と9月下旬、自宅（冬花社）に開設したギャラリーで展示会を開いたが、訪れた人たちを驚かせた。

一42歳のとき主人に先立たれ、中学生と高校生の子ども二人を抱えて途方に暮れた。『芸は身を助ける』の言葉通の、この袋物作りが、親子を支えてくれた」

知り合いの呉服店や手芸品店などからの注文が相次いだ。伝え聞いて、受注は湘南一帯に広がり多忙を極めたときもあった。

「一つひとつ型紙を作って布地を裁断する。柄合わせし、注文通りの袋物を作っていく。うまく仕上がったときはほっとする」

物を収める袋状の道具は日常の生活とも結びつき歴史は古い。発火器入れの火打袋が巾着に変化したように、時代によって求めるものが変わるだけに奥は深い。

「バスや電車の中で、自分の作ったバッグを持っている人に出会うとうれしくなる。一つしかないから、何年経っても自作のものと分かる」

1男1女の子どもたちが成長し、プロとしての製作は遠のいた。いまはリサイクルにも目を向けながら、袋物という伝統文化の火をともし続けている。

本紙俳壇の選者志摩知子さん主宰の「和賀江」の同人で約30年になる。孫やひ孫に囲まれ84歳とは思えない若さがある。

材木座の冬花社ギャラリーで展示しているが、金土曜にオープン。問い合わせ☎0467・23・9973

20回目の方代忌に120人参列

山梨からも駆けつけ、遺徳しのぶ

鎌倉市の瑞泉寺（大下一一の歌人といわれた山崎方代真住職）で9月上旬、放浪さんをしのぶ、20回目の方代忌が営まれ、約120人が参列した。

方代さんの古里、山梨県から元中道町長池谷陸男さんや方代会の田中良彦会長ら15人が、貸し切りバスで駆けつけた。

寺の客殿、書院もいっぱいで、大下住職の読経のあと、「あまだむ」編集発行人の阿木津英さんが「方代の修羅」の題で講演した＝写真。

阿木津さんは方代さんの出身地の石合村のことや戦争体験などを、歌を交えながら興味深く話した。続いて山梨県立文学館の学芸課長や友人らが、方代さんの思い出などを述べた。

方代さんは1985年8月、70歳でなくなった。翌年から毎年方代忌が開かれている。「方代研究」という本も年2回刊行され、素朴な方代さんの歌は死後注目されている。

大下住職は「方代さんのファンが増え、歌が輝きを放ってきているのはうれしい」と話していた。

「わぁー大きなクリだ」家族で歓声

十二所果樹園でクリ拾い

鎌倉風致保存会が所有する十二所果樹園で9月9日、クリ拾いが行われ、親子連れら百人余が参加、大きなクリに歓声あげた＝写真は熊田登喜夫さん撮影。

今年はできがよく、係りの人が木から落としたクリのイガを足で開いたりして、中のクリを取り出していた。この日収穫した栗は、80㌔ほどで、園で9月9日、1キロ当たり4百円で即売された。

三浦丘陵緑地帯の一角をなす同果樹園は総面積約5㌶、昨年12月にそれまでの地権者の農事組合法人十二所果樹園芸農場から風致保存会が緑地保全のため買収した。

園内には梅とクリがそれぞれ6百本ほど植えられ、収穫期の行事や、下草刈りなどのボランティア体験などの場として活用されている。

車イスや点字体験、よさこいなど

模擬店もありにぎわった鎌倉福祉まつり

鎌倉福祉まつりが9月上旬、鎌倉御成町の福祉センターで開かれ、千8百人を超える人が訪れた。

81年の国際障害者年からで今年26回目。

屋外の仮設舞台で和太鼓やよさこい、華やかなフラメンコが行われ、見物する人でにぎわった。

よさこい踊りは市立第二小4、5年有志23人が参加し、ナルコと呼ばれる鳴り物を手に元気な踊りを披露した＝写真。

車イス、アイマスクなどの体験もあった。やきそばやおでん、手作りパンなど15の模擬店は昼すぎにはどれも完売するほど盛況だった。

屋内では市民からの寄付物品、作業所生産品のバザーのほか、点字体験、福祉相談や似顔絵、おもちゃの修理などが行われた。

募金に4万6千円

鎌倉花火の11カ所

鎌倉花火大会を安全で楽しい催しにするために市観光協会が8月中、観光案内所や海の家、コンビニなど11カ所に募金箱を置き、協力を呼びかけたところ、46,386円が集まった。

警備、仮設トイレやゴミステーション設置などの費用にあてるという。

ハロウィンかぼちゃ 近日入荷！
花キューピット 全国にお花を贈ります。
㈲ナカムラ生花（ヨイハナ）
鎌倉市材木座3-9-34 ☎0467-25-4187代 FAX 25-4188

大切にします…… 「心」からのおもてなし。
CHINESE-RESTAURANT
中国料理 華正楼（かせいろう）
●鎌倉店／鎌倉長谷大仏前 ☎0467(22)0280代 ●横浜中華街／本店 ☎045(681)2918代 新館 ☎045(661)0661代

タクシーのご用命は24時間受付
TEL. 0467-44-2214
京急交通タクシー

明日の環境を創造する。
浄化そうの清掃維持管理
貯水槽清掃及び環境整備事業は
株式会社 神中運輸
〒248-0007 鎌倉市大町4-1-35 ☎(0467)(22)2205代

い・い・ま・ち・鎌倉
御成（おなり）不動産
（扇ヶ谷入口第一生命前）
鎌倉市御成町13番22号 ☎0467－25－1003代